

世の中はめまぐるしく変わっていきます。

多くのひとびとは、多忙と過労においやられ、生活のうるおいを失い、人間らしさを喪失していております。

こうした社会の変ぼうと人間喪失のあやなすひづみに、さまざまな問題がおきてきて、世の中をいっそう不安なものにしています。

このような社会のなかにあつて、教育もまたきわめて不安定な状態にあります。教育の方向の見定めもきちっとつかず、学校のまとまりもつきかねている実態がみうけられます。このような学校教育の状態では、民族の将来がおもいやられます。

若い生命を育てる教育には夢がなければなりません。

変ぼうする社会の実相をみつめ、未来を展望し、そのなかに、人間らしく、たくましく生きぬいていく人間のあり方を見定めて、教育のねらいを確立することが大切です。そして、ねら

う人間づくりには、教師も親もかたく結びあつて執念にとり組んでいかねばなりません。

こうした姿勢にたつて、静かに教育の道を探り求めていきたいと思ひます。

。道 雑草の中にあり

。池水にうつる月をみよ

月ゆがむにあらす

波 さわぐなり

今こそ、世相混迷のなかにあつても、じぶんを見失なわなないで、雑草をかきわけながら、真実の教育の道を探し求め歩んでいきたいものです。

目次

I 学校経営のねらい	一	○手だての十項目	一〇
○いのちを預かるという自覚	一	○家庭に對話を	一五
○いのちを生かし育てるねらい	二	○自己確立の質の高まり	一五
○子ども像に迫る努力事項	四	○廊下は静かに歩く	一七
II 努力事項の実践	六	○他人の立場や存在を意識する	一七
(一)いつでも自分の考えをはっきりさせる	六	○人の心情を気にする	一八
○人権の確立	六	○積極的な社会的態度を養う	一九
○集団への主体的参加	六	○四つの生活ことば	一九
○実質的な集団思考	七	(二)気持ちよく挨拶をする	二二
○いきいきとした学習集団	八	○失なわれていく挨拶	二二
○学習のよろこび	八	○人間関係にうるおいを	二二
○力のつく学習	九	○コミュニケーションとしての挨拶	二二
○認めあう仲間づくり	九	○しつけるものではない	二二
(二)読書に親しむ態度を養う	二七	(四)清掃を無言でやりとげる	二四
(1)人間形成と読書	二八	○最少の人数	二五
○生活の中に読書を	二八	○最少の時間	二五
○考える力を養う	二九	イ読書の環境をととのえるために	三二
○人間の生き方・いのちの重みを 考えさせる	二九	○学校図書の充実と学級文庫方式	三二
○豊かな心を育てる	三〇	○家庭環境づくり	三三
○心の交流をはかる	三〇	○読書の時間	三三
(2)学習力の基盤を培う読書	三一	○読書生活を深めるために	三四
○すべての学習の基礎力	三一	○読書記録	三四
○情報獲得能力を養う	三一	○感想文	三四
(3)今までの歩み	三三	(六)体力を最大限にのばす	三五
		○ひよわい体	三五
		○体育の生活化	三五
		○自主的な体力づくり	三六
		○体育行事を積極的に	三六
		○体育の時間の充実	三七
		○仲間意識の確立	三七
		○健康な生活習慣を	三七

(七) 継続観察の態度を養う……………三九

○ 身近なことに疑問をもつ子……………三九

○ 継続的に見つめる子……………四〇

・ 計画をたて自分でやる……………四〇

・ 深くみる……………四一

・ 科学性を培う……………四二

・ きまりを明らかにする……………四三

(八) 計画をもって家庭のくらしをする……………四四

○ 家庭の分裂化現象……………四四

○ 家族間の人間接触の喪失……………四四

○ 具体的な実践の姿……………四六

○ 生活ノート(わたしのかがみ)……………四六

○ 自律的生活態度……………四五

○ 学校と親と子の人間的交流……………四五

○ 計画実践での留意点……………四七

(九) 自分の心をすなおに表現する……………四八

○ 個性的な表現……………四八

○ 型にはまらない表現……………四九

○ するどい感受性……………四九

○ 表現する技術……………五〇

(十) 身のまわりを美しくする……………五一

○ より豊かな経験を……………五一

○ 成功の満足を……………五二

◎ 教育実践と評価・表彰……………五四

(一) 望ましい評価のあり方を求めて……………五四

○ 教育活動と評価……………五四

○ 評価の教育的意義……………五四

○ 学習評価の働き……………五五

○ 学習評価の方法……………五五

(1) 評価方法の多様化……………五六

(2) 学習評価の数値化……………五六

(3) 五分間テスト(通称)の充実……………五七

○ 評価法の例……………五七

○ 評価と「学習と行動の記録」……………五八

(一) 表彰活動について……………五九

○ ひとりひとりをみつめ育てる……………五九

○ 個人の意欲……………五九

○ 優等生表彰の型を破る……………六〇

○ 生き方への感動をもたせる……………六〇

○ 権威の認証から集団認証へ……………六〇

○ 表彰事項を固定化しない……………六一

Ⅲ 子どものいのちを生かし育てる

教育態勢

○ こんな学校に……………六二

○ こんな家庭に……………六三

Ⅳ 校内教研のすすめ方……………六四

(一) 研究実践のしくみとはたらき……………六四

○ 専門委員会組織……………六四

(二) 職員研究協議の進め方……………六六

○ 研究計画の見通し……………六六

○ 主任活動の重視……………六六

○ 欠かせない事前検討……………六七

○ 研修日の配分……………六七

(三) 授業研究……………六七

○ 授業研究の方法の改革……………六七

○ プラス・アルファ方式……………六八

(四) 日々の教材研究……………六八

○ 独創的な指導案……………六八

附表……………七〇

本校の沿革……………七〇

I 学校経営のねらい

いのちを預かるという自覚 この世の中に、人間のいのちほど尊く、大事なものはない。何がこわされ、失われようと、人のいのちがきずつけられ、ゆがめられ、失なわれるほど大きい問題は無い。学校は、その尊いいのちを、毎日お預かりしている。

わたしたちは、教育の立場から、「いのち」を一応、肉体的生命と人格的生命と能力的生命に分類してとらえている。そして、この三つの生命の有機的な統合体が人間存在であると考えらる。

ところで、学校がいのちを預かるとは、この肉体的な生命の安全を守り、健康を保持増進し、さらに、たくましい活動力をもったものに鍛え育てていくことである。

つぎに、豊かな情操や道徳性を養い、じぶんを人間らしく生かし切り、人の人権を大事にし合い、幸せな平和な生活や社会を築いていく人格的生命を育てることである。

さらに、人間のもつ諸能力を開発・伸長させ、確かな知識、豊かな判断力、たくましい創造

力を最大限に育てていくことである。

ところで、幼い子どもの「いのち」は、無限の発展の可能性を秘めたものであり、同時に、もろさ、弱さをもったものである。

素人が菊づくりをすると、枯らしたりいじけさせたりするが、菊づくりの名人の手にかかる、すくすくと成長し、美しい花を開き、ふくよかな香りをただよわせる。

若い生命も、その本質に、もろさ、弱さをもっている。したがって、教育の仕方によっては伸びるべき素質が伸びなかつたり、人間をいじけさせたり、さらには非人間的な存在にしてしまう。しかし一面、無限の発展の可能性を秘めたものであるだけに、教育がたしかねないをもって、適切な営みがなされていけば、すばらしい人間や集団に育てていくことができる。

ここにわれわれは、若い生命を預かる教育という仕事へのおそれを自覚しなければならぬ。また、この若き生命は、現在、とりわけ将来に向って、生活や社会を発展的に創造していく根源的エネルギーである。

したがって、教育が若い個々の生命をいかに開発、育成していくかが、近い将来の社会を大きく左右するものであるという責任感と社会的使命感の自覚にたたねばならない。

いのちを生かし育てるねらい 急速な勢いで発展する科学文明は、社会の生産体制、生産様

式を大きく変えてきている。その結果、生活全般の文化性の高まりをみる事ができた。

また、交通・情報機関の発達、人々の生活様式や生活意識、生活感覚を大きく変えてきた。しかしながら、これにともなって、家族の生活態度も異様な変化をもたらし、日本人全体が大きく経済的欲求主義に傾いてきた。それにつれて、人間生活に多忙と過労がみなぎり、必然的に人間らしさを喪失してきている。

教育はこうした社会動向の実態と展望を見定めながら、現在に生き、将来に生き抜く人間づくりのねらいを見定めねばならない。

われわれは、以上のような観点から、本校教育の指向する子ども像を次のように定めた。

1. いつでも、自分の考えをはっきりともつ子
2. 健康でねばり強い子
3. ものごとのよしあしを判断して、自分をきびしく正し、なかまを正しあって助けあっていく子
4. ひとをきずつけない子
5. うるおいのある子

子ども像に迫る努力事項 ねばり強い人間は、体育だけで育つものではない。また、自分でものを考える人間は、教科の学習だけで育つものではない。

人間の生命が有機的な性質をもつものだけに、理想とする子ども像を育てる教育実践は、多様な有機的な構造化をもって、その努力事項が定められねばならない。

しかも、この努力事項は、教師の観念的な抽象の世界にえがかれるものではなく、子どもたちの具体的な実践事項としておさえられ、教師も子どももたえず意識し、実践への相ことばとなる性質のものであるべきだろう。

われわれは、以上のような観点から、子ども像にせまる実践事項を検討し、次の一〇項目の努力事項を決定し、このことだけは教師も児童も全校をあげて、格別の留意と努力をすることを誓って進んできている。

1. いつでも、自分の考えをはっきりさせる
2. 廊下を静かに歩く
3. 気持ちよく挨拶をする
4. 掃除を無言ではやくやりとげる
5. 読書に親しむ態度を養う

6. 体力を最大限に伸ばす
7. 継続観察の態度を養う
8. 計画をもって家庭のくらしをする
9. 自分の心をすなおに表現する
10. 身のまわりを美しくする

以上の一〇項目の努力事項について、そのねらいと実践の方法を以下詳述しよう。